

主催 白梅学園大学・短期大学教育福祉研究センター
特定非営利活動法人 日本世代間交流協会

世代間交流コーディネーター養成講座

講義：平成 19 年 8 月 11 日（土）

現場体験：平成 19 年 8 月 3 日（金）または 8 月 24 日（金）

講師：草野 篤子 白梅学園短期大学教授，特定非営利
活動法人 日本世代間交流協会会長
金田 利子 白梅学園大学教授，特定非営利
活動法人 日本世代間交流協会副会長
多湖 光宗 （社福）自立共生会理事長，ウェルネス
医療クリニック院長
杉 啓以子 （社福）江東園事務局長

世代間交流コーディネーター養成講座は、人と人、世代と世代をつなぐ役割を果たすコーディネーターをつとめるのに必要な資質や技能、理論を身につけることをめざし、世代間交流コーディネーターの基礎力を養成するものである。

今、日本の社会を見てみると、際立った特徴の一つは、他の国よりも急速に、少子高齢化が進んでいることである。21 世紀の少子・高齢社会における他世代と共存・共働する地域や社会のあり方を、それを構成するわたくしたち自身が、考えていくことが必要となっている。

年金・医療・経済システムの破綻といったネガティブな見方だけではなく、子ども・青年・中年・高齢者が、地域で活発に社会活動に参加し、交流を図ることは、相互互恵性を生み出すこととなる。人と人との関係を構築し、女性と子どもだけの地域社会から、全ての世代が参画し、現代社会が抱えている諸問題を解決する足がかりを作ることは、現代社会のニーズである。このようなニーズに対応する為には、子ども・青年・中年・高齢者を結びつける世代間交流コーディネーターの存在が重要となっている。

まず、講義では、最初に「世代間交流とはなにか。—— 世代をつなぎ地域を再生する ——」と題して、本短期大学教授草野篤子が、現代社会における世代間交流の必要性、その広がり、歴史、そして日本以外の国々での世代間交流の実践および研究に言及し、日本での学校・地域・施設、とりわけ統合施設における活動を紹介した。

続いて、「生涯発達と世代間交流」と題して、本大学教授 金田利子が、人間の子どものから青年・中年・高齢者に至るまでの生涯発達における過程での他世代との相互「互恵性」について解説した。

第 3 番目には、三重県桑名市で、乳幼児からお年寄りまでの施設を運営し、世代間交流を実践する自立共生会理事長兼、ウェルネス医療クリニック院長の多湖光宗氏が、認知症高齢者施設「ひかりの里」と、放課後学童クラブ「パンの木」や乳幼児施設との日々の交流の姿をビデオや、パワーポイントを使用して紹介した。

現場体験実習は、すでに 20 年以上も高齢者と保育園児の世代間交流を毎日のベースで行っている、東京都江戸川区の社会福祉法人「江東園」で行われた。朝 9 時からの、保育園児と高齢者の朝

の挨拶とラジオ体操から始まって、日中も様々な交流や遊びなどが実践されている。江東園の事務局長 杉啓以子氏から職員が積極的に世代間交流にたずさわるシステム作りや20年という長期にわたる高齢者と保育園両施設での世代間交流の経緯、困難さ等に加えて、今後、世代間交流を学校や園・施設等で実施したいと考えている人が、実際にどのように計画・実践すれば良いのかについて、助言が与えられた。

コーディネーター養成講座の最後に、連携団体である特定非営利活動法人 日本世代間交流協会から、「世代間交流コーディネーター養成講座受講認定証」が授与された。